

# 成年後見制度制定・リーガルサポート設立20周年記念シンポジウム 体験記

公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート鹿児島支部

シンポジウム実行委員長 蘭 田 貴 充

平成31年3月16日に、表題のシンポジウムを県民交流センターにて開催しました。

この度執筆依頼をいただき、折角の機会なので次の記念事業に繋がられるように、記録を残しておきたいと思えます。

開催の1年ほど前にシンポジウムを開催することが役員会にて決まり、当時の支部長内田大介さんから、役員の中でも仕事が少なかった私が目を付けられ、実行委員長をすることとなりました。実行委員会は、鎌田哲也さん・直井圭介さん・安田健太郎さん・高木幸一郎さん・横山茂太さん・私の計6名で構成しました。実行委員の皆さんには、声掛けしたところ二つ返事で快諾をいただきましたことを、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。



内容としては、改めて成年後見制度について知ってもらうこと、成年後見制度が抱えている課題、課題を抱えているが今後も益々必要であること、といったテーマで検討を進めました。当初から、桂ひな太郎師匠による成年後見落語は、他県で好評であったこともありプログラムの一つに確定しました。基調講演を入れるかどうかは賛否あったのですが、20年前にもリーガルサポートで講演をしていただいたと噂で聞いていた生島ヒロシさんが快諾してくれたこともあり、行うことになりました。最後に、司法書士も誰か出なければと内田雅之さんに声をかけたところ快諾をいただきました。そして内田さん一人に押し付けるのもなんだかなと思ひ、私も登壇し座談会として成年後見制度について、桂ひな太郎師匠、地域包括支援センターの西野浩朗さんと一緒に話をするという企画を加えることになりました。

プログラムが固まった時点で、支部長と手分けをして後援先へ挨拶まわりを行いました。鹿児島県司法書士会と鹿児島県司法書士会鹿児島支部からも後援をもらい、シンポジウムと並行して



行った無料相談会の相談員派遣に協力をしてもらいました。その後は広告代理店を通して、広報をどのように行うかを検討したり、講師と打ち合わせを行ったりしました。生島ヒロシさんとは事務所の担当者を通して講演内容の調整を行いました。桂ひな太郎師匠とは座談会でどういった話をするかをメールでやりとりをし、シンポジウムの前夜にも飲食をしながら打ち合わせを行いました。

その他細かい点をバタバタと準備をし、当日を迎えました。当日はリーガルサポート鹿児島支部の役員全員で対応しました。来場者がどのくらい来るのか読めなかったところもあり、多かろうが少なかろうが、来てくれた人に精一杯応えていきたいと思いますという意気込みで開場時間に向けて皆で準備を進めました。ただ、人が少ないと寂しいので、2階席はテープで封鎖を行いました。時間が近づき、まず驚いたのは、入り口に長い列ができ、整理しきれなくなったので時間前に開場をしないと、入場整理担当から連絡がきたことです。入り口付近が混雑し、会場の他の利用者にご迷惑がかかるおそれがあったため、早めに来場者には会場に入ってもらふことになりました。次に驚いたのは、来場者用の資料が無くなったと受付担当から連絡がきたことです。来場者用の資料として500部用意をし、残った部数で来場者数を大まかに把握しようと算段していたのですが、500部が早々に無くなってしまいました。最終的に、生島ヒロシさんの基調講演では、県民ホール590席がいっぱいになり、立ち見の方も多数おられました。落語、座談会と徐々に人数は少なくなりましたが、最後まで半数以上の席は埋まっていたかと思います。



個人的な反省はさておき、アンケートも沢山回収することができ、沢山の良い評価をいただきました。私たち司法書士としては、成年後見制度が如何に注目されているか、また必要とされているかを逆に思い知らされた結果でした。私は先の総会でリーガルサポート役員任期は満了しましたが、今後もリーガルサポート会員として草の根のように活動は続けていく所存です。多重会務を減らしたいと思っただけで、決して後見業務に疲れた訳ではないことをこの場をお借りして申し添えます。最後に、今回のシンポジウムでは、沢山の人たちにご協力いただき、ありがとうございました。また、内田大介前支部長と事務局鎌田さんには特に沢山ご尽力いただきありがとうございました。世の中のニーズに可能な限り応えていくことで、私たちの司法書士業界にも明るい未来が待っていると信じております。

